



2017・11・09

2017 殿堂者（殿堂入り） 2017 歴史遺産車

2017～2018 殿堂イヤー賞

NPO 法人 日本自動車殿堂 会長 藤本 隆宏(東京大学 教授)

事務局:〒東京都千代田区神田神保町1-32 3F 三樹書房内

TEL:03-3295-2468/FAX:03-3291-4418 <http://www.jahfa.jp>

表彰式典: 2017年(平成29年)11月15日(水曜日) 11時～12時30分
学士会館 式場(202号)

1. 2017 日本自動車殿堂 殿堂者（殿堂入り） 4名

宮川 秀之 氏 カロツツェリアを日本に紹介 自動車デザインを飛躍させた功労者

宮川 秀之氏は、モーターサイクルで世界一周の折、イタリアン・デザインに魅了され、イタルデザイン設立に参画、日本車の先導的デザインへの架け橋として活躍し、自動車文化に多大なる貢献をされました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

高島 鎮雄 氏 日本の自動車文化の発展に貢献 自動車史考証を先導

高島 鎮雄氏は、自動車雑誌編集、そして世界の名車の歴史本の執筆により、若い世代に自動車の楽しさを伝え、若者が自動車エンジニアやデザイナーを目指す、良き動機付けに繋げ多大なる貢献をされました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

鈴木 孝幸 氏 ディーゼルエンジンの先進技術とハイブリット技術を開拓

鈴木 孝幸氏は、日野自動車のディーゼルエンジンの、排出ガスのクリーン化 燃費向上、信頼性・耐久性向上技術を開発すると共に、世界初のディーゼル・電気ハイブリットバスの実用化など、自動車の産業の発展に多大なる貢献をされました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

木村 治夫 氏 忠実なる真のレストアを貫き日本のレストア活動を牽引

木村 治夫氏は、社会と共に歩んで来た自動車の、史実に基づく忠実なレストアを貫き、日本のレストア活動を牽引し、後世への自動車文化の伝承に、多大なる貢献をされました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

2. 2017 日本自動車殿堂 歴史遺産車 4台

ダイハツ ツバサ号三輪トラック (1932年)

ダイハツは1931年当初から、エンジンを国産化し、車体も量産性のあるものとして、三輪自動車工業の近代化をリードした。1932年に発売されたツバサ号は、プロペラシャフトと差動装置による駆動方式を初採用しコーナリング時の運転性を著しく改善した、歴史に残る名車である。

トヨタ ランドクルーザー40系 (1960年)

トヨタ ランドクルーザー40系はクロスカンントリータイプ4WD車として、1960年に発売され、堅牢なシャーシ、大排気量エンジンにより、すぐれたオフロード性能と信頼性・耐久性を発揮。先代をリファインした実用本位のスタイルのまま、機能面の改良を重ねて24年間生産され、世界中で愛用された歴史に残る名車である。

プリンス スカイラインGT (1964年)

プリンス スカイラインGTはレース出場資格を得るべく、1964年に限定生産・販売された高性能セダン。スカイラインのフロントボディを延長してグロリアの6気筒エンジンを搭載、レースで健闘して人気をさらい、翌年スカイライン2000GTとして量産化、その後の国産高性能セダンのパイオニアとなった、歴史に残る名車である。

スバル1000 (1966年)

スバル1000は水平対向エンジンを搭載した、合理的設計のFF小型乗用車として1966年に発売され、FFによる空間効率の高さを証明。4輪独立懸架 インボード式フロントブレーキ、デュアルラジエーターによる3段階式冷却システムなど、多くのすぐれた技術も採用した、歴史に残る名車である。

3. 2017～2018 日本自動車殿堂 イヤー賞

2017～2018 日本自動車殿堂カーオブザイヤー（国産乗用車）

「ホンダ N-BOX」および開発グループ

走行性・快適性・経済性の高度な融合
クラス最高水準の全方位衝突安全対策
助手席ロングスライドによる利便性

2017～2018 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー（輸入乗用車）

「ボルボ S90/V90/V90 Cross Country」およびインポーター

より洗練された孤高の北欧調スタイリング
15種類以上の運転支援技術を標準装備
EV自動運転を見据えた新世代プラットフォーム

2017～2018 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー（国産・輸入乗用車）

「LEXUS LC500」およびデザイングループ

独創的デザインのラグジュアリークーペ
磨き抜かれたスピンドル・グリルとシルエット
高性能と快適空間をマッチさせた上質なインテリア

2017～2018 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー（国産・輸入乗用車）

「日産 リーフ 搭載技術」および開発グループ

利便性を高めたプロパイロット パーキング
一充電航続距離 400kmを実現
運転負担を軽減する e-Pedal システム

以上

【問い合わせ先】

日本自動車殿堂 事務局

担当 山田国光

k-yamada@mikipress.com

TEL:03-3295-2468 FAX:03-3291-4418

参考資料 1

2017～2018 日本自動車殿堂イヤー賞投票結果(各賞ベスト3)

2017～2018 日本自動車殿堂カーオブザイヤー	(MAX:1300点)
1位 「ホンダ N-BOX」	875点
2位 「日産 ノート e-POWER」	849点
3位 「日産 リーフ」	803点
2017～2018 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー	(MAX:1300点)
1位 「ボルボ S90/V90/V90 Cross Country」	976点
2位 「テスラ MODEL-X」	880点
3位 「メルセデス ベンツ Eクラスクーペ」	750点
2017～2018 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー	(MAX:800点)
1位 「LEXUS LC500」	585点
2位 「トヨタ C-HR」	574点
3位 「アルファロメオ ジュリア」	506点
2017～2018 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー	(MAX:1000点)
1位 「日産 リーフ 搭載技術」	746点
2位 「日産 ノート e-POWER」	707点
3位 「トヨタ プリウス PHV」	553点

参考資料 2

日本自動車殿堂・イヤー賞の選考要領(抜粋)

1. イヤー賞 4賞の選考

当該年度において発売された「最も優れた乗用車・輸入車・デザイン・テクノロジーおよびそれらの開発グループ等」を表彰する。

2. 年次の選考対象期間

本年度の新型車の対象期間は、2016年10月21日から2017年10月20日までをその期間とする。

3. 選考方法

- (1) イヤー賞は、選考の客観化と定量化そして高質化を目指し事前に各賞の選考委員集団の評価特性を位置付ける。すなわち、評価を行う側の委員の評価特性を「実用利便性」「経済性」「先進性」「安全性」「環境性」「審美性」などの項目により計量・解析し、レーダーチャートによって提示する。
- (2) 各賞の選考は、選考委員の投票によって行う。
- (3) 選考委員は、自動車研究に係る大学教授や研究開発機関の研究者等とし、4賞に延べ56名が当たる。
- (4) 選考の投票には、総合評価および階層分析法(Alytic Hierarchy Process)を組み合わせた選考準備委員会が構築した方式(データの正規化などによる評価の客観化・定量化)を用いる。

以上